

平成30年9月25日

平成29年度「国語に関する世論調査」の結果について

文化庁では、国語施策の参考とするため、平成7年度から毎年「国語に関する世論調査」を実施しています。この度、平成29年度に実施した結果がまとまりましたので、発表します。

1 調査の概要

調査目的：日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象：全国16歳以上の男女

調査時期：平成30年3月

調査方法：個別面接調査

回収結果：調査対象総数 3, 579人
有効回収数（率） 2, 022人（56. 5%）

2 調査項目

- ① 国語や言葉への関心
- ② 句読点や符号の使い方
- ③ 表記の決まり
- ④ メールの書き方
- ⑤ 外来語についての意識
- ⑥ 新しい表現や、慣用句等の意味・言い方 など

3 添付資料

- 平成29年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

＜本件担当＞ 文化庁文化部国語課
国語課長 高橋 憲一郎（内線2837）
国語調査官 武田 康宏（内線2841）
専門職 小沢 貴雄（内線2842）
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-2840（直通）

平成 29 年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

調査目的・方法等

調査目的 文化庁が平成7年度から毎年実施しているもので、日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象 全国 16 歳以上の男女

調査時期 平成 30 年 3 月

調査方法 一般社団法人中央調査社に委託し個別面接調査を実施

調査結果	調査対象総数	3, 579 人
	有効回答数(率)	2, 022 人 (56. 5%)

備 考 ・百分比は各問いの回答者数を 100%として算出し、小数点第2位を四捨五入したため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。また、百分比の差を示す「ポイント」については、小数点第1位を四捨五入して示した。

目 次

I 国語や言葉への関心

- ◆ 国語について、どの程度関心があるか……………＜問1＞……3
- ◆ 日本語を大切にしているか……………＜問2＞……3
- ◆ 書き言葉や話し言葉の使い方はどうあるべきだと思うか……………＜問3＞……3

II 句読点や符号の使い方

- ◆ 横書きで文章を書くとき、句読点はどれを使うか……………＜問4＞……4
- ◆ 句読点等の使い方に関して、何か困っていることがあるか……………＜問5＞……4
- ◆ 符号の使い方についてどのように思うか……………＜問6＞……4
- ◆ 官公庁などが示す文書を読むことがあるか……………＜問7＞……5
- ◆ 公用文や横書きの教科書に用いる句読点について、どう考えるか……………＜問8＞……5

III 表記の決まり

- ◆ 学校で教わる表記の仕方と、官公庁などが示す文書や法令の表記の仕方が異なる場合があることを知っているか……………＜問9＞……6
- ◆ どちらの書き方が良いと思うか……………＜問 10＞……6

IV メールの書き方

- ◆ 仕事上やり取りするメールなど改まったメールをやり取りすることがあるか……………＜問 11＞……7
- ◆ 仕事上やり取りするメールなど改まったメールを作成する場合、どのようなものを参考にしているか……………＜問 11(付)＞……7
- ◆ 仕事上やり取りするメールなど改まったメールに決まった型や形式があると思うか……………＜問 12＞……7
- ◆ メールの型や形式とは具体的に、どのようなものか・どのようなものが良いか……………＜問 12(付 1, 2)＞……8

V 外来語についての意識

- ◆ 外来語や外国語などのカタカナ語の意味が分からずに困ることがあるか……………＜問 13＞……………9
- ◆ 外来語や外国語などのカタカナ語の使用についてどう思うか……………＜問 14＞……………9
- ◆ 外来語や外国語などのカタカナ語の使用について好ましくないと感じるのは、どのような理由からか……………
……………＜問 14(付2)＞……………9
- ◆ 同じ意味の言葉だと思うか、使い分けのできる言葉だと思うか……………＜問 15＞……………10
- ◆ 不特定多数の人に宛てた文書等に用いる言葉として、どちらを使う方がいいと思うか……………＜問 15(付1)＞……………10

VI 新しい表現や、慣用句等の意味・言い方

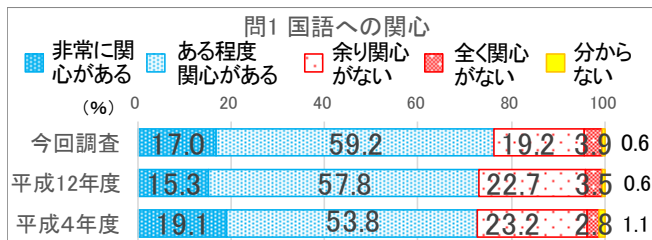
- ◆ 聞いたこと、使ったことがある言い方か……………＜問 16＞……………11
- ◆ どちらの意味だと思うか……………＜問 17＞……………13
- ◆ どちらの言い方を使うか……………＜問 18＞……………14

I 国語や言葉への関心

* 報告書のページを表す。

国語について、どの程度関心があるか＜問1＞(P.3*)

—「関心がある(計)」と、7割台半ばが回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

日常の言葉遣いや話し方、あるいは文章の書き方など、国語について、どの程度関心があるかを尋ねた。

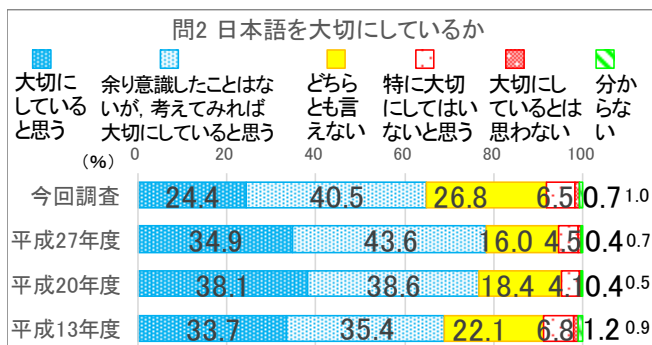
「非常に関心がある」(17.0%)と「ある程度関心がある」(59.2%)を合わせた「関心がある(計)」は76.3%となっている。一方、「全く関心がない」

(3.9%)と「余り関心がない」(19.2%)を合わせた「関心がない(計)」は23.1%となっている。

過去の調査結果(平成4, 12年度)と比較すると、平成12年度調査から今回調査に掛けて「関心がある(計)」は3ポイント増加し、「関心がない(計)」は3ポイント減少している。

日本語を大切にしているか＜問2＞(P.8)

—「大切にしている(計)」と、6割台半ばが回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

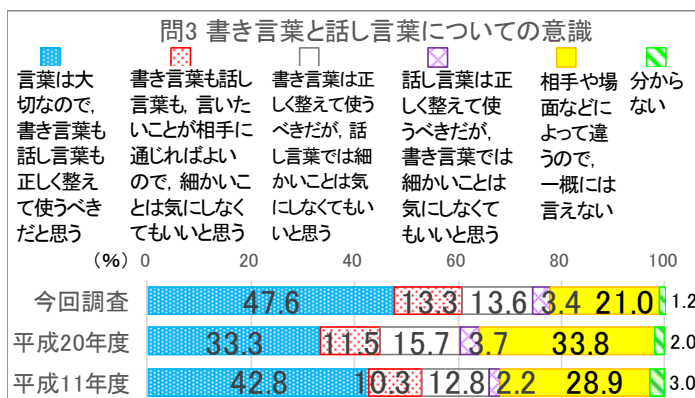
毎日使っている日本語を大切にしているか、それともそうはしていないかを尋ねた。

「大切にしていると思う」(24.4%)と「余り意識したことはないが、考えてみれば大切にしていると思う」(40.5%)を合わせた「大切にしている(計)」は64.9%となっている。「どちらとも言えない」は26.8%となっている。

過去の調査結果(平成13, 20, 27年度)と比較すると、「大切にしている(計)」は平成13年度調査から平成27年度調査に掛けて増加傾向にあったが、今回調査では平成27年度調査より14ポイント減少している。

書き言葉や話し言葉の使い方はどうあるべきだと思うか＜問3＞(P.14)

—「書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべきだと思う」が、平成20年度調査から14ポイント増—



〔全体・過去の調査との比較〕

日常生活の中で、書き言葉や話し言葉の使い方はどうあるべきだと思うか、五つの考え方を挙げて、どの考え方に近いかを尋ねた。

「言葉は大切なものなので、書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべきだと思う」が47.6%、「書き言葉も話し言葉も、言いたいことが相手に通じればよいので、細かいことは気にしなくてもいいと思う」が13.3%、「書き言葉は正しく整えて使うべきだが、話し言葉では細かいことは気にしなくてもいいと思う」が13.6%、「話し言葉は正しく

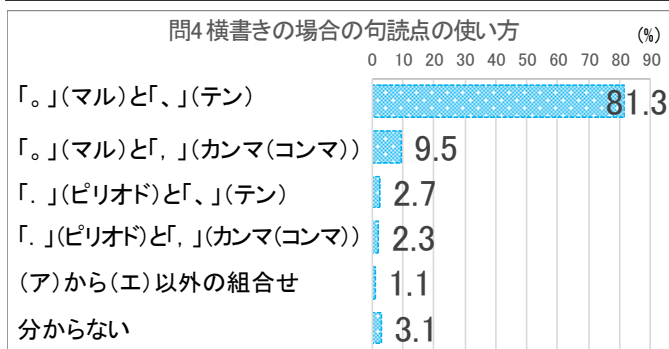
整えて使うべきだが、書き言葉では細かいことは気にしなくてもいいと思う」が3.4%、「相手や場面などによって違うので、一概には言えない」が21.0%となっている。

過去の調査結果(平成11, 20年度)と比較すると、「言葉は大切なものなので、書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべきだと思う」は、平成11年度調査から平成20年度調査に掛けて10ポイント減少したが、平成20年度調査から今回調査では14ポイント増加している。

Ⅱ 句読点や符号の使い方

横書きで文章を書くとき、句読点はどれを使うか＜問4＞（P.17）

—よく使っている組合せは「。」と「、」が、8割強—



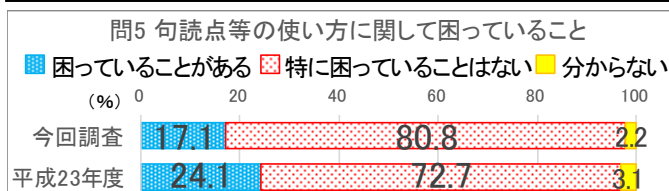
〔全体〕

横書きで文章を書くとき、句読点はどれを使うか、よく使っていると思う組合せを尋ねた。

「。」「(マル)と「、」(テン)」が 81.3%で最も高く、以下、「。」「(マル)と「、」(カンマ(コンマ))」が 9.5%、「. 」(ピリオド)と「、」(テン)」が 2.7%、「. 」(ピリオド)と「、」(カンマ(コンマ))」が 2.3%となっている。

句読点等の使い方に関して、何か困っていることがあるか＜問5＞（P.19）

—約8割が、「困っていることはない」と回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

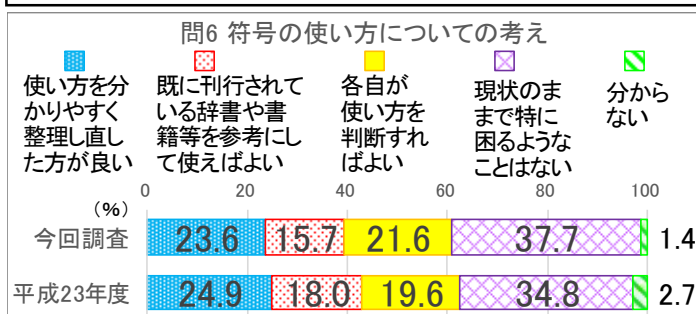
文章や手紙、メールなどを書くときの句読点等の使い方に関して、何か困っていることがあるか、それとも特に困っていることはないかを尋ねた。

「困っていることがある」が 17.1%、「特に困っていることはない」が 80.8%となっている。

過去の調査結果(平成 23 年度)と比較すると、「困っていることがある」は 7 ポイント減少し、「特に困っていることはない」は 8 ポイント増加している。

符号の使い方についてどのように思うか＜問6＞（P.22）

—「現状のままで特に困るようなことはない」が4割弱と最も高い—



〔全体・過去の調査との比較〕

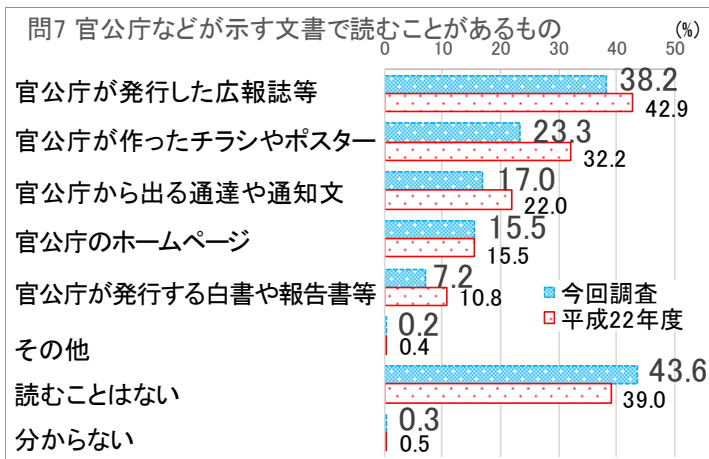
句読点など、文章を書くときに用いる符号の使い方についてどのように思うかを尋ねた。

「現状のままで特に困るようなことはない」が 37.7%と最も高く、以下、「使い方を分かりやすく整理し直した方がよい」(23.6%)、「各自が使い方を判断すればよい」(21.6%)となっている。

過去の調査結果(平成 23 年度)と比較すると、「現状のままで特に困るようなことはない」「各自が使い方を判断すればよい」は 2～3 ポイント増加している。

官公庁などが示す文書を読むことがあるか＜問7＞（P.24）

—「読むことはない」が、43.6%と最も高い—



〔全体・過去の調査との比較〕

官公庁などが示す文書で読むことがあるものを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。

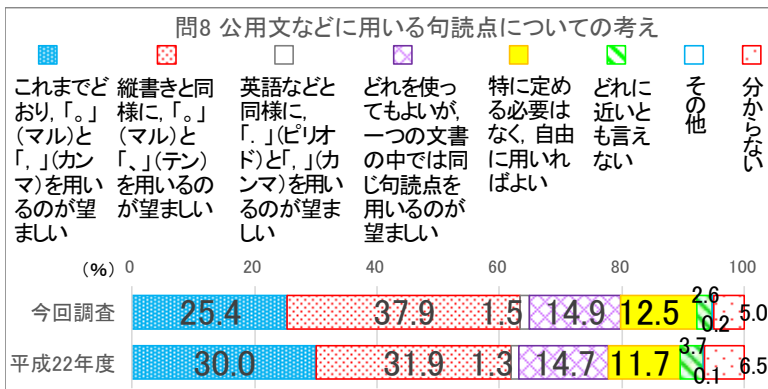
「官公庁が発行した広報誌等」が38.2%で最も高く、次いで、「官公庁が作ったチラシやポスター」（23.3%）となっている。一方、「読むことはない」と答えた人は43.6%となっている。

過去の調査結果（平成22年度）と比較すると、「官公庁が作ったチラシやポスター」が9ポイント、「官公庁から出る通達や通知文」「官公庁が発行した広報誌等」が5ポイント、「官公庁が発行

する白書や報告書等」が4ポイント、それぞれ減少している。一方、「読むことはない」は5ポイント増加している。

公用文や横書きの教科書に用いる句読点について、どう考えるか＜問8＞（P.29）

—「「。」と「、」を用いるのが望ましい」が4割弱、「「。」と「、」を用いるのが望ましい」が2割台半ば—



〔全体・過去の調査との比較〕

公用文や横書きの教科書に用いる句読点について、どのようにするのが良いと考えるかを尋ねた。

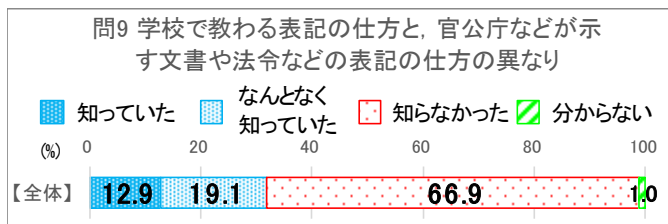
「縦書きと同様に、「。」（マル）と「、」（カンマ）を用いるのが望ましい」が37.9%で最も高く、次いで「これまでどおり、「。」（マル）と「、」（カンマ）を用いるのが望ましい」が25.4%となっている。以下、「どれを使ってもよいが、一つの文書の中では、同じ句読点を用い

るのが望ましい」（14.9%）、「特に定める必要はなく、自由に用いればよい」（12.5%）、「英語などと同様に、「。」（ピリオド）と「、」（カンマ）を用いるのが望ましい」（1.5%）となっている。

過去の調査結果（平成22年度）と比較すると、「縦書きと同様に、「。」（マル）と「、」（カンマ）を用いるのが望ましい」が6ポイント増加し、「これまでどおり、「。」（マル）と「、」（カンマ）を用いるのが望ましい」は5ポイント減少している。

Ⅲ 表記の決まり

学校で教わる表記の仕方と、官公庁などが示す文書や法令の表記の仕方が異なる場合があることを知っているか＜問9＞（P.32）
— 66.9%が「知らなかった」と回答—



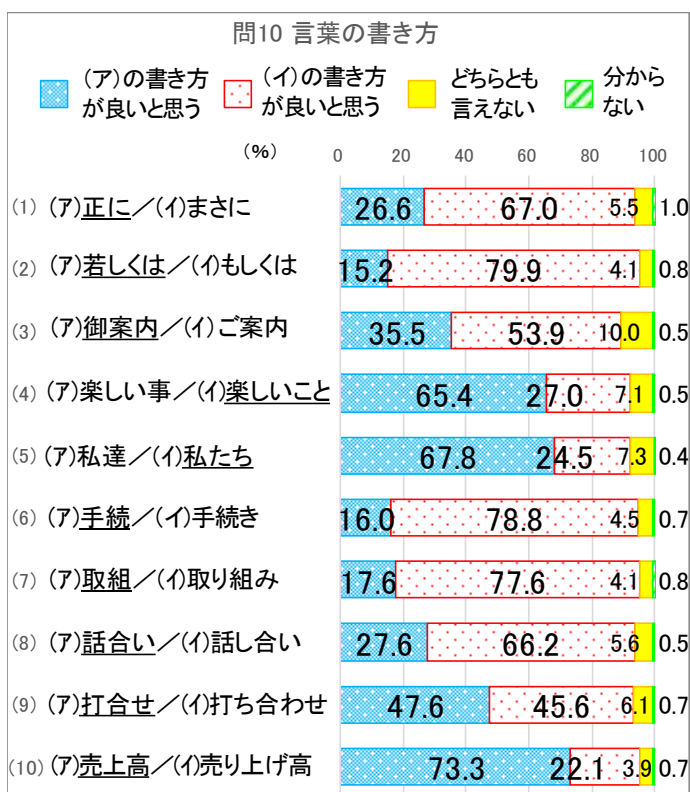
〔 全 体 〕

送り仮名の付け方など漢字の使い方について、学校で教わる表記の仕方と、官公庁などが示す文書や法令の表記の仕方が、異なる場合があるということを知っていたかを尋ねた。

「知っていた」(12.9%)と「なんとなく知っていた」(19.1%)を合わせた「知っていた(計)」は32.0%となっている。「知らなかった」は66.9%となっている。

どちらの書き方が良いと思うか＜問10＞（P.34）

— 公用文の表記の決まりとは異なる書き方を選んでいる割合が比較的高い—



〔 全 体 〕

10 の言葉の書き方について、それぞれ2通りの書き方を挙げて、どちらが良いと思うかを尋ねた。なお、グラフにおいて公用文に用いられる表記の方に下線を付した。

「(ア)の書き方が良いと思う」では、「(10)(ア)売上高」が73.3%と最も高く、次いで、「(5)(ア)私達」(67.8%)、「(4)(ア)楽しい事」(65.4%)となっている。

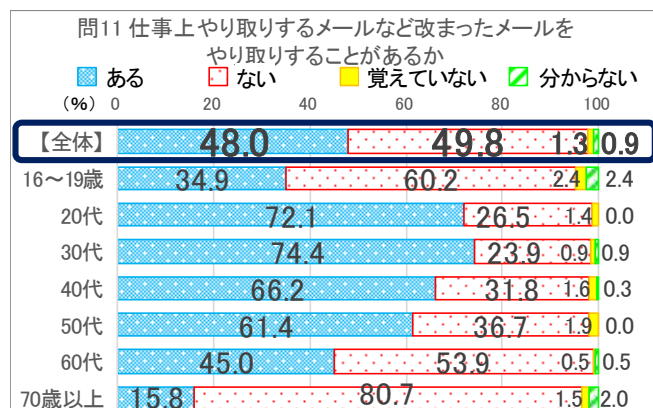
一方、「(イ)の書き方が良いと思う」では、「(2)(イ)もしくは」が79.9%と最も高く、次いで、「(6)(イ)手続き」(78.8%)、「(7)(イ)取り組み」(77.6%)となっている。

また、「(9)(ア)打合せ／(イ)打ち合わせ」は、「(ア)の書き方が良いと思う」が47.6%、「(イ)の書き方が良いと思う」が45.6%となっている。

IV メールを書き方

仕事上やり取りするメールなど改まったメールをやり取りすることがあるか＜問 11＞(P.40)

—20～50 代の6～7割が、「ある」と回答—



〔全体〕

仕事上やり取りするメールなど、改まったメールを、送ったり受け取ったりしたことがあるかを尋ねた。

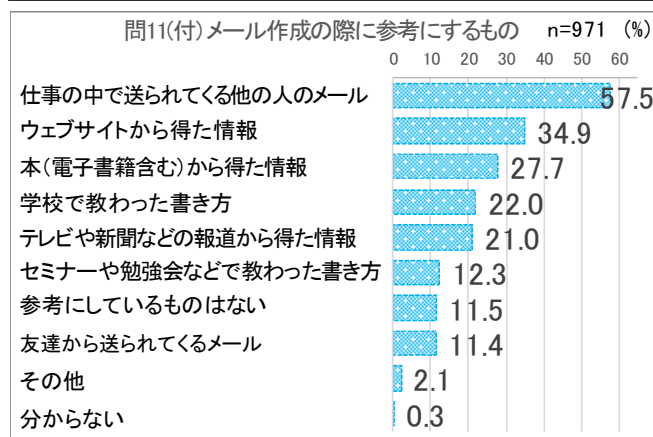
「ある」が48.0%、「ない」が49.8%となっている。

〔年齢別〕

年齢別に見ると、「ある」は、20～50代で他の年代より高く6～7割台となっている。

仕事上やり取りするメールなど改まったメールを作成する場合、どのようなものを参考にしているか＜問11(付)＞(P.40)

—6割弱が「仕事の中で送られてくる他の人のメール」と回答—



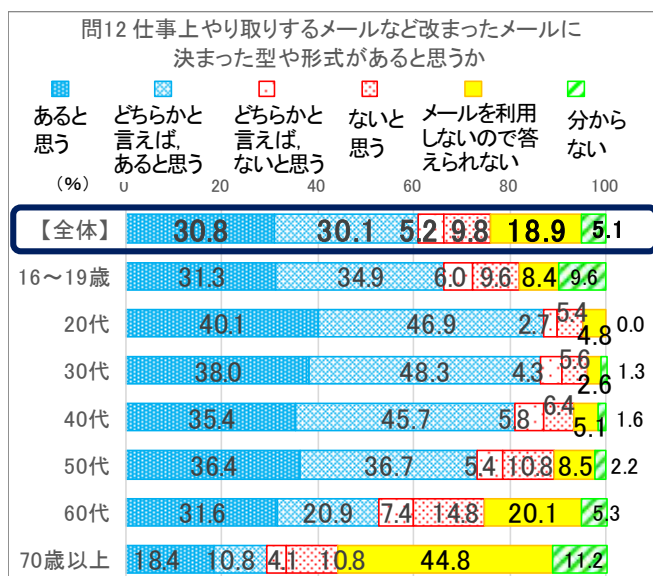
〔全体〕

仕事上やり取りするメールなど、改まったメールを、送ったり受け取ったりしたことが「ある」と答えた人(全体の48.0%)に、改まったメールを作成する場合、どのようなものを参考にしているかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)。

「仕事の中で送られてくる他の人のメール」が57.5%で最も高く、次いで「ウェブサイトから得た情報」が34.9%となっている。一方、「参考にしているものはない」は11.5%となっている。

仕事上やり取りするメールなど改まったメールに決まった型や形式があると思うか＜問 12＞(P.45)

—6割強が、「あると思う(計)」と回答—



〔全体〕

仕事上やり取りするメールなど、改まったメールには、決まった型や形式があると思うか、それとも、そうは思わないかを尋ねた。

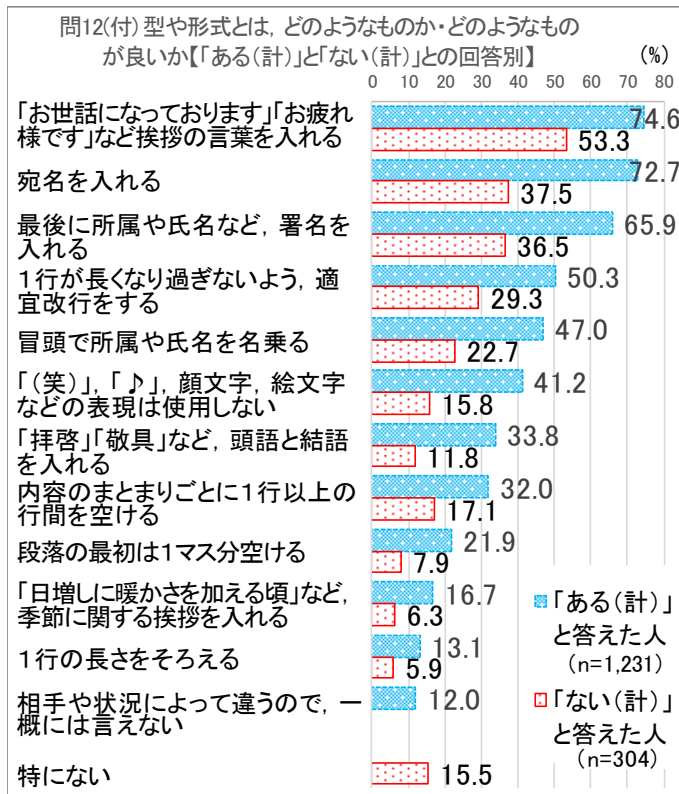
「あると思う」(30.8%)と「どちらかと言えば、あると思う」(30.1%)を合わせた「あると思う(計)」は60.9%となっている。一方、「ないと思う」(9.8%)と「どちらかと言えば、ないと思う」(5.2%)を合わせた「ないと思う(計)」は15.0%となっている。また、「メールを利用しないので答えられない」は18.9%となっている。

〔年齢別〕

年齢別に見ると、「あると思う(計)」は、20～50代で他の年代より高く7～8割台となっている。「ないと思う(計)」は、60代で他の年代より高く22.1%となっている。

型や形式とは具体的に、どのようなものか・どのようなものが良いか＜問 12(付 1, 2)＞(P.45)

—7割台前半が、「挨拶の言葉を入れる」「宛名を入れる」と回答—



〔 全 体 〕

仕事上やり取りするメールなど、改まったメールには、決まった型や形式が「あると思う」「どちらかと言えば、あると思う」と答えた人(全体の 60.9%)に、決まった型や形式とは、どのようなものであると考えるかを尋ねるとともに、「ないと思う」「どちらかと言えば、ないと思う」と答えた人(全体の 15.0%)に、型や形式として、どのようなものがあると良いと考えるかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)。

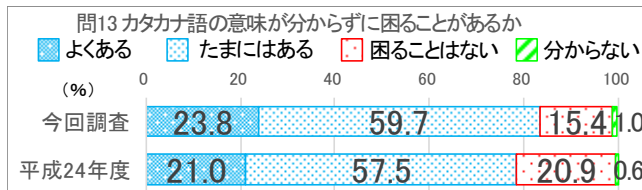
「ある(計)」と答えた人では、「「お世話になっております」「お疲れ様です」など、挨拶の言葉を入れる」が74.6%で最も高く、次いで「宛名を入れる」(72.7%)となっている。

「ない(計)」と答えた人では、「「お世話になっております」「お疲れ様です」など、挨拶の言葉を入れる」が 53.3%で最も高く、次いで、「宛名を入れる」(37.5%)となっている。

V 外来語についての意識

外来語や外国語などのカタカナ語の意味が分からずに困ることがあるか＜問 13＞(P.52)

—83.5%が、「ある(計)」と回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

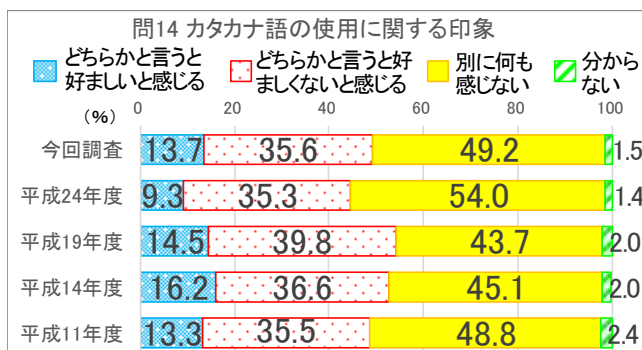
日頃、読んだり聞いたりする言葉の中に出てくる外来語や外国語などのカタカナ語の意味が分からずに困ることが、よくあるか、たまにはあるか、それとも、ないかを尋ねた。

「よくある」(23.8%)と「たまにはある」(59.7%)を合わせた「ある(計)」は 83.5%となっている。一方、「困ることはない」は 15.4%となっている。

過去の調査結果(平成 24 年度)と比較すると、「よくある」「たまにはある」はそれぞれ増加し、「ある(計)」は 5 ポイント増加している。一方、「困ることはない」は 6 ポイント減少している。

外来語や外国語などのカタカナ語の使用についてどう思うか＜問 14＞(P.54)

—3割台半ばが「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

日常生活の中で、外来語や外国語などのカタカナ語を交えて話したり書いたりしていることを、どちらかと言うと好ましいと感じるか、どちらかと言うと好ましくないと感じるか、それとも、別に何も感じないかを尋ねた。

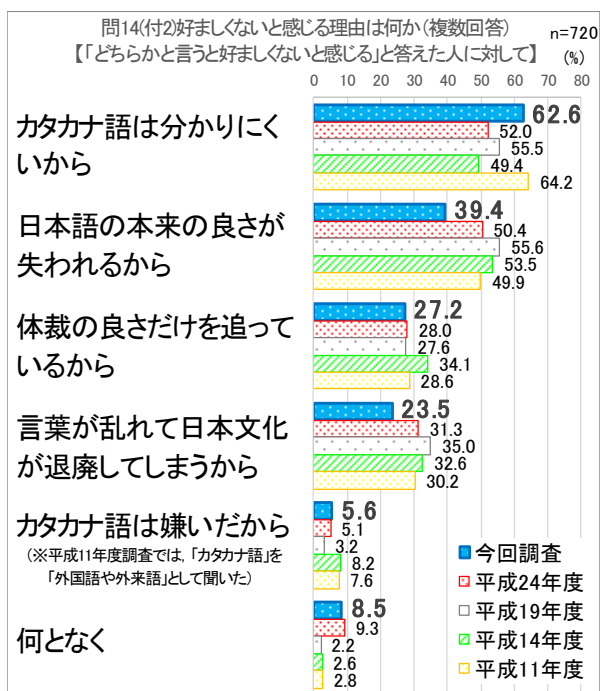
「どちらかと言うと好ましいと感じる」が 13.7%、「どちらかと言うと好ましくないと感じる」が 35.6%となっている。また、「別に何も感じない」が 49.2%となっている。

過去の調査結果(平成 11, 14, 19, 24 年度)と比較すると、「どちらかと言うと好ましいと感じる」は平成 14

年度から、24 年度に掛けては減少傾向にあったが、今回調査では平成 24 年度調査から 4 ポイント増加している。「別に何も感じない」は平成 24 年度調査から今回調査に掛けて 5 ポイント減少している。

外来語や外国語などのカタカナ語の使用について好ましくないと感じるのは、どのような理由からか＜問14(付2)＞(P.54)

—「カタカナ語は分かりにくいから」が平成 24 年度調査から 11 ポイント増加し、62.6%—



〔全体・過去の調査との比較〕

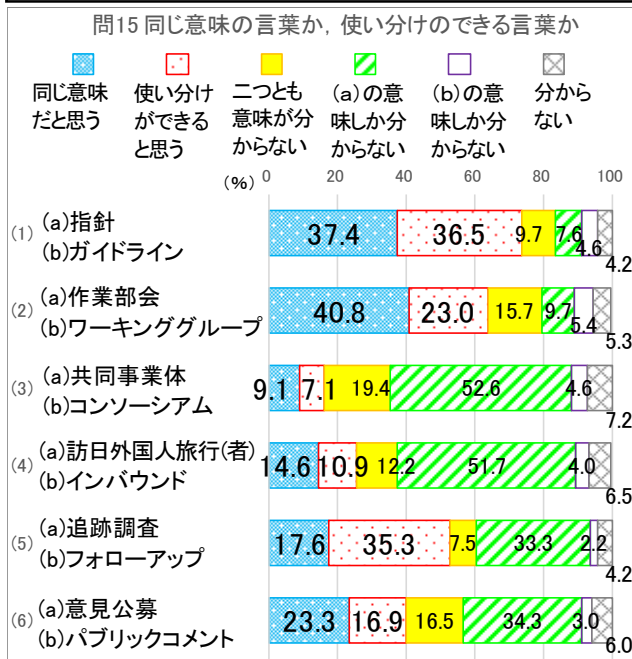
外来語や外国語などのカタカナ語を交えて話したり書いたりしていることを「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と答えた人(全体の 35.6%)に、その理由を尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)。

「カタカナ語は分かりにくいから」が 62.6%で最も高く、以下、「日本語の本来の良さが失われるから」(39.4%)が 4 割弱、「体裁の良さだけを追っているようだから」(27.2%)、「言葉が乱れて日本文化が退廃してしまうから」(23.5%)がそれぞれ 2 割台となっている。

過去の調査結果(平成 11, 14, 19, 24 年度)と比較すると、「カタカナ語は分かりにくいから」は、平成 24 年度調査から今回調査に掛けて 11 ポイント増加している。一方、「日本語の本来の良さが失われるから」は 11 ポイント、「言葉が乱れて日本文化が退廃してしまうから」は 8 ポイント、それぞれ平成 24 年度調査から今回調査に掛けて減少している。

同じ意味の言葉だと思うか、使い分けのできる言葉だと思うか＜問 15＞（P.59）

—「使い分けができると思う」が「同じ意味だと思う」を上回ったのは、「追跡調査/フォローアップ」だけ—



〔全体〕

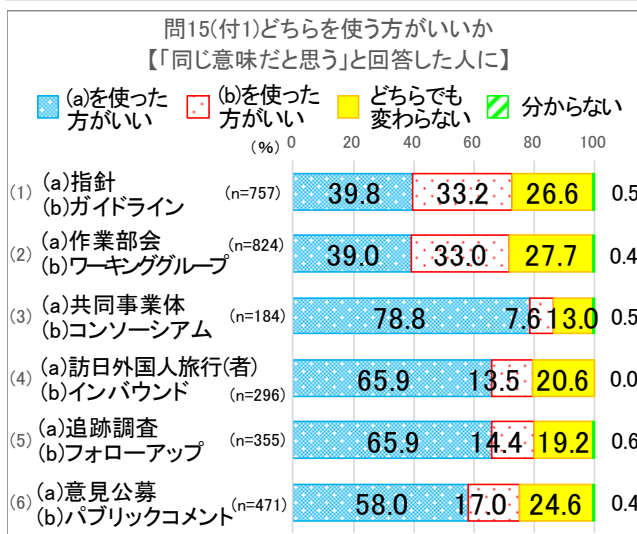
同じような文脈で用いられることのある(a)漢字を用いた語と(b)カタカナ語の組合せ6項目について、同じ意味の言葉だと思うか、それとも、使い分けのできる言葉だと思うかを尋ねた。

「同じ意味だと思う」は、「(2)(a)作業部会／(b)ワーキンググループ」が 40.8%で最も高く、次いで、「(1)(a)指針／(b)ガイドライン」(37.4%)となっている。一方、「使い分けができると思う」は「(1)(a)指針／(b)ガイドライン」が 36.5%で最も高く、次いで、「(5)(a)追跡調査／(b)フォローアップ」(35.3%)となっている。

また、「(a)(漢字を用いた語)の意味しか分からない」は、「(3)(a)共同事業体／(b)コンソーシアム」が52.6%で最も高く、次いで、「(4)(a)訪日外国人旅行(者)／(b)インバウンド」(51.7%)、「(6)(a)意見公募／(b)パブリックコメント」(34.3%)となっており、(3)，(4)，(6)については、他の選択肢の割合を上回っている。

不特定多数の人に宛てた文書等に用いる言葉として、どちらを使う方がいいと思うか＜問15(付1)＞（P.59）

—全ての言葉で「(a)漢字を用いた語を使った方がいい」が「(b)カタカナ語を使った方がいい」を上回っている—



〔全体〕

同じような文脈で用いられることのある(a)漢字を用いた語と(b)カタカナ語の組合せ6項目について「同じ意味だと思う」と答えた人に、役所などの官公庁が作成する文書のように、不特定多数の人に宛てた文書等に用いる言葉としては、(a)漢字を用いた語と(b)カタカナ語のどちらを使う方がいいと思うか、それぞれ尋ねた。

「(a)(漢字を用いた語)を使った方がいい」は、「(3)(a)共同事業体／(b)コンソーシアム」が78.8%で最も高く、次いで、「(4)(a)訪日外国人旅行(者)／(b)インバウンド」「(5)(a)追跡調査／(b)フォローアップ」(各 65.9%)が6割台半ば、「(6)(a)意見公募／(b)パブリックコメント」(58.0%)が6割弱となっており、6項目全てで「(a)

(漢字を用いた語)を使った方がいい」の割合が他の選択肢の割合を上回っている。「(b)(カタカナ語)を使った方がいい」は、「(1)(a)指針／(b)ガイドライン」が 33.2%で最も高く、次いで「(2)(a)作業部会／(b)ワーキンググループ」(33.0%)となっている。

また、「どちらでも変わらない」は、「(2)(a)作業部会／(b)ワーキンググループ」が 27.7%で最も高く、次いで、「(1)(a)指針／(b)ガイドライン」(26.6%)、「(6)(a)意見公募／(b)パブリックコメント」(24.6%)となっている。

VI 新しい表現や、慣用句等の意味・言い方

聞いたこと、使ったことがある言い方が<問 16> (P.67)

—4割強が、(2)「後ろ倒し」は「聞いたことがない」と回答。6割弱が、(3)「目線」を「使うことがある」と回答—

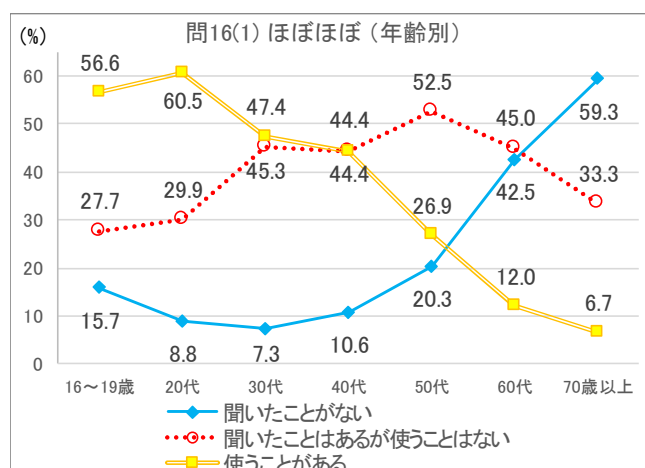
(数字は%)

〔 全 体 〕

	聞いたことがない	聞いたことはあるが使うことはない	使うことがある	分からない
(1) ほぼほぼ完成している	31.0	41.2	27.3	0.5
(2) 開始の時期を後ろ倒しにする	42.5	44.5	12.3	0.8
(3) 上から目線の言い方をされた	4.8	37.2	57.4	0.5
(4) 彼とはタメ口で話をする	12.6	35.2	51.0	1.2
(5) ガチで勝負をする	11.1	46.9	41.0	0.9
(6) 自分の立ち位置を確認する	10.1	40.5	48.5	0.9

表に挙げた六つの言い方について、聞いたことがあるか、また、使ったことがあるかをそれぞれ尋ねた。

「聞いたことがない」は、(2)「後ろ倒し」が 42.5%と最も高く、次いで、(1)「ほぼほぼ」(31.0%)となっている。「聞いたことはあるが使うことはない」は、(5)「ガチ」が 46.9%と最も高く、次いで、(2)「後ろ倒し」(44.5%)となっている。「使うことがある」は、(3)「目線」が 57.4%と最も高く、次いで、(4)「タメ」(51.0%)、(6)「立ち位置」(48.5%)となっている。



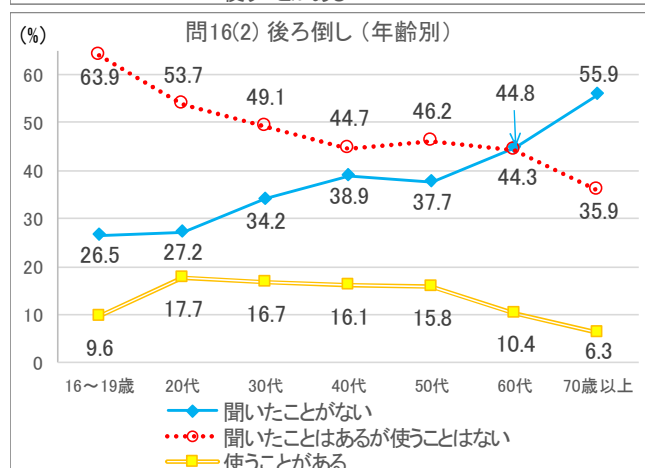
〔 年 齢 別 〕

(1) ほぼほぼ 完成している

年齢別に見ると、「聞いたことがない」は、60代以上で他の年代より高く、70歳以上で最も高く 59.3%となっている。

「聞いたことはあるが使うことはない」は、50代で他の年代より高く 52.5%となっている。

「使うことがある」は、40代以下で他の年代より高く 4割台半ばから6割強となっており、30代以下で「聞いたことはあるが使うことはない」を上回っている。

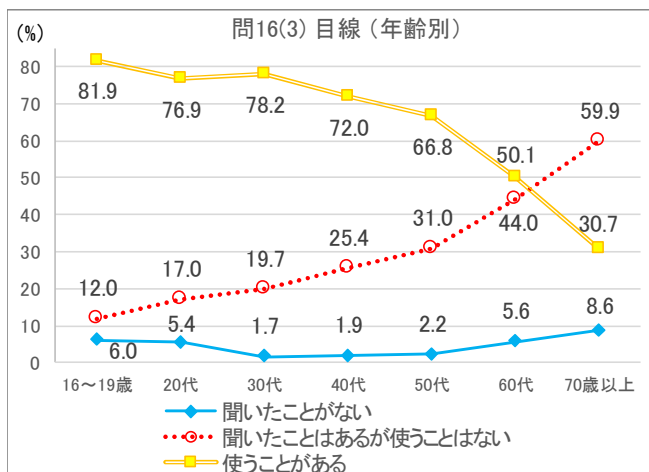


(2) 開始の時期を 後ろ倒し にする

年齢別に見ると、「聞いたことがない」は、70歳以上で他の年代より高く 55.9%となっている。

「聞いたことはあるが使うことはない」は、年代が下がるに従って高くなる傾向が見られ、50代以下で「聞いたことがない」を上回り、16~19歳で最も高く 63.9%となっている。

「使うことがある」は、20~50代で他の年代より高く 1割台後半となっている。

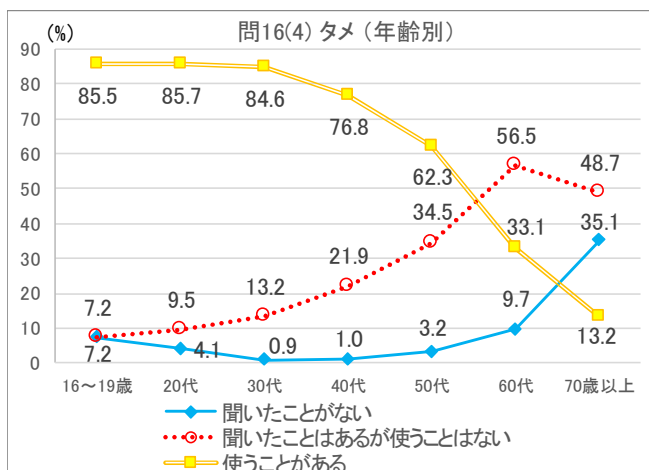


(3) 上から 目線 の言い方をされた

年齢別に見ると、「聞いたことがない」は、全ての年代で1割未満となっている。

「聞いたことはあるが使うことはない」は、年代が上がるに従って高くなり、60代で44.0%、70歳以上で59.9%となっている。

一方、「使うことがある」は、年代が下がるに従って高くなる傾向が見られ、60代以下で「聞いたことはあるが使うことはない」を上回っており、50代で6割台半ば、20～40代で7割台、16～19歳で8割強となっている。

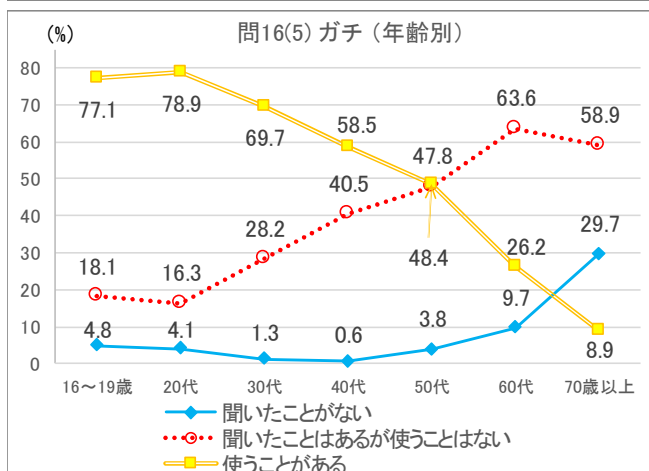


(4) 彼とは タメ ロで話をする

年齢別に見ると、「聞いたことがない」は、70歳以上で他の年代より高く35.1%となっている。

「聞いたことはあるが使うことはない」は、16～19歳から60代に掛けて年代が上がるに従って高くなり、60代で最も高く56.5%、次いで、70歳以上で48.7%となっている。

「使うことがある」は、年代が下がるに従って高くなる傾向が見られ、50代以下で「聞いたことはあるが使うことはない」を上回っており、特に、30代以下で8割台半ばとなっている。

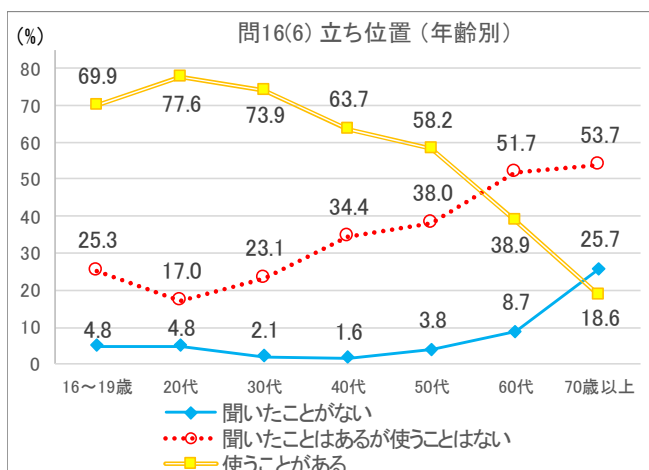


(5) ガチ で勝負をする

年齢別に見ると、「聞いたことがない」は、70歳以上で他の年代より高く29.7%となっている。

「聞いたことはあるが使うことはない」は、20代から60代に掛けて年代が上がるに従って高くなり、60代で最も高く63.6%、次いで70歳以上で58.9%となっている。

「使うことがある」は、年代が下がるに従って高くなる傾向が見られ、50代以下で「聞いたことはあるが使うことはない」を上回っており、特に、20代以下で7割台後半となっている。



(6) 自分の 立ち位置 を確認する

年齢別に見ると、「聞いたことがない」は、70歳以上で他の年代より高く25.7%となっている。

「聞いたことはあるが使うことはない」は、20代から70歳以上に掛けて、年代が上がるに従って高くなり、60代以上で5割台前半となっている。

「使うことがある」は、70歳以上から20代に掛けて、年代が下がるに従って高くなり、特に、20～30代で7割台となっている。

どちらの意味だと思うか＜問 17＞(P.72)

—「檄を飛ばす」「なし崩し」は、共に6割台後半が、本来の意味とは違うとされる方を回答—

(数字は%)

〔全体・過去の調査との比較〕

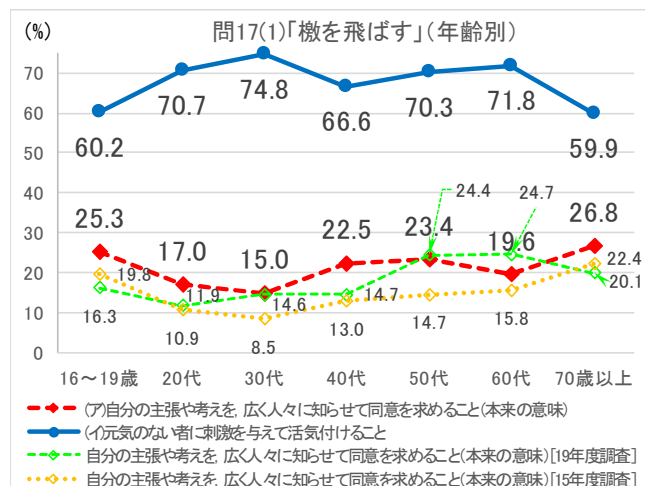
表に挙げた三つの慣用句等について、どちらの意味だと思うか尋ねた。なお、辞書等で**主に本来の意味とされるものをゴシック体**で記した。

今回尋ねた慣用句のうち、「(1)檄(げき)を飛ばす」及び「(3)なし崩し」は、本来の意味とは違うとされる方が多く選択されるという結果となっている。

過去の調査結果((1)は平成 15,19 年度, (2)は 18 年度)と比較すると、本来の意味とは違うとされる方を選択した割合が、「(1)檄を飛ばす」では減少傾向にあり、「(2)やおら」では 13 ポイント減少している。

(1) 檄(げき)を飛ばす	平成 29 年度	19 年度	15 年度
(ア) : 自分の主張や考えを, 広く人々に知らせて同意を求めること	22.1	19.3	14.6
(イ) : 元気がない者に刺激を与えて活気付けること	67.4	72.9	74.1
(ウ) : (ア)と(イ)の両方	2.6	2.2	4.7
(エ) : (ア), (イ)とは, 全く別の意味	3.2	0.6	1.9
分からない	4.8	5.0	4.7
(2) やおら (例文:彼はやおら立ち上がった。)	平成 29 年度	18 年度	
(ア) : 急に, いきなり	30.9	43.7	
(イ) : ゆっくりと	39.8	40.5	
(ウ) : (ア)と(イ)の両方	1.8	1.1	
(エ) : (ア), (イ)とは, 全く別の意味	4.1	0.3	
分からない	23.5	14.4	
(3) なし崩し (例文:借金をなし崩しにする。)	平成 29 年度		
(ア) : なかったことにすること	65.6		
(イ) : 少しずつ返していくこと	19.5		
(ウ) : (ア)と(イ)の両方	1.3		
(エ) : (ア), (イ)とは, 全く別の意味	5.0		
分からない	8.5		

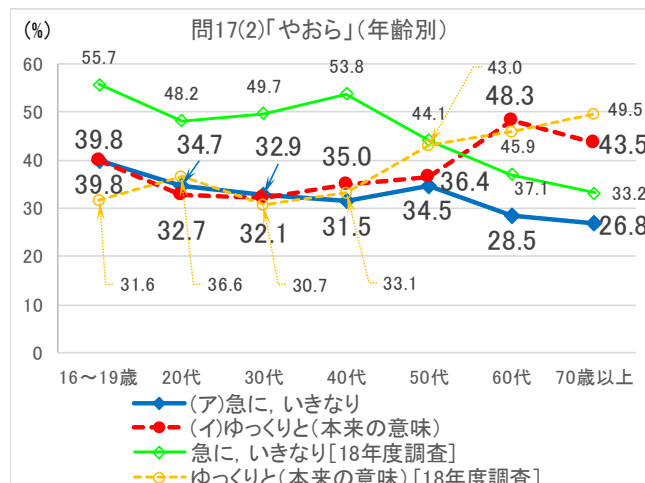
〔年齢別・過去の調査との比較〕※本来の意味とされるものは点線(- - -)で表示した。



(1) 檄を飛ばす

年齢別に見ると、本来の意味とされる「自分の主張や考えを, 広く人々に知らせて同意を求めること」は、全ての年代で「元気がない者に刺激を与えて活気付けること」を下回っているが、16～19 歳と 70 歳以上で他の年代より高く 2 割台後半となっている。「元気がない者に刺激を与えて活気付けること」は、20～30 代と 50～60 代で他の年代より高く 7 割台前半となっている。

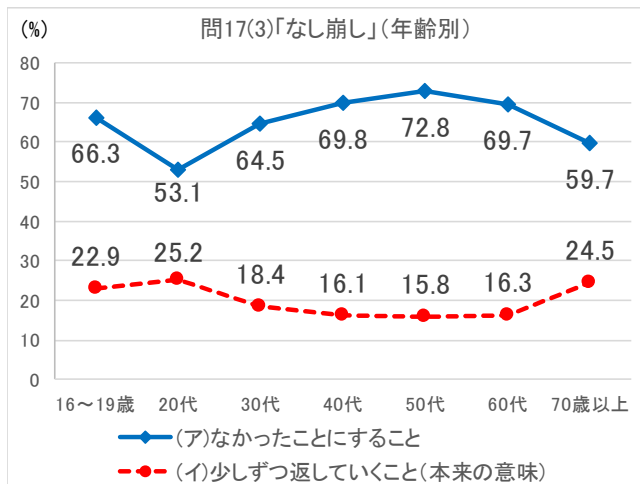
過去の調査結果(平成 15,19 年度)と比較すると、余り変化は見られない。



(2) やおら

年齢別に見ると、本来の意味とされる「ゆっくりと」は、60 代以上で他の年代より高く 4 割台となっている。「急に, いきなり」は、年代が上がるに従って低くなる傾向が見られる。

過去の調査結果(平成 18 年度)と比較すると、本来の意味とされる「ゆっくりと」は、余り変化は見られない。「急に, いきなり」は、全ての年代において 6～22 ポイント減少している。



(3) なし崩し

年齢別に見ると、本来の意味とされる「少しずつ返していくこと」は、全ての年代で「なかったことにすること」を下回っているが、20代と70歳以上で他の年代より高く2割台半ばとなっている。「なかったことにすること」は、50代で他の年代より高く72.8%となっている。

どちらの言い方を使うか<問 18> (P.76)

—3割強が本来の言い方とされる「采配を振る」を使うと回答、一方、5割台半ばが「采配を振るう」を使うと回答—

(数字は%)		
(1)「チームや部署に指図を与え、指揮すること」を	平成 29年度	20年度
(ア)：「(a)采配を振る」を使う	32.2	28.6
(イ)：「(b)采配を振るう」を使う	56.9	58.4
(ウ)：(a)と(b)の両方とも使う	1.3	3.8
(エ)：(a)と(b)のどちらも使わない	6.5	6.4
分からない	3.0	2.8
(2)「胸のつかえがなくなり、気が晴れること」を	平成 29年度	19年度
(ア)：「(a)溜飲(りゅういん)を下げる」を使う	37.4	39.8
(イ)：「(b)溜飲を晴らす」を使う	32.9	26.1
(ウ)：(a)と(b)の両方とも使う	1.0	1.2
(エ)：(a)と(b)のどちらも使わない	18.9	22.5
分からない	9.7	10.3
(3)「多くの中から、選び出されること」を	平成 29年度	
(ア)：「(a)白羽の矢が立つ」を使う	75.5	
(イ)：「(b)白羽の矢が当たる」を使う	15.1	
(ウ)：(a)と(b)の両方とも使う	0.7	
(エ)：(a)と(b)のどちらも使わない	6.5	
分からない	2.2	

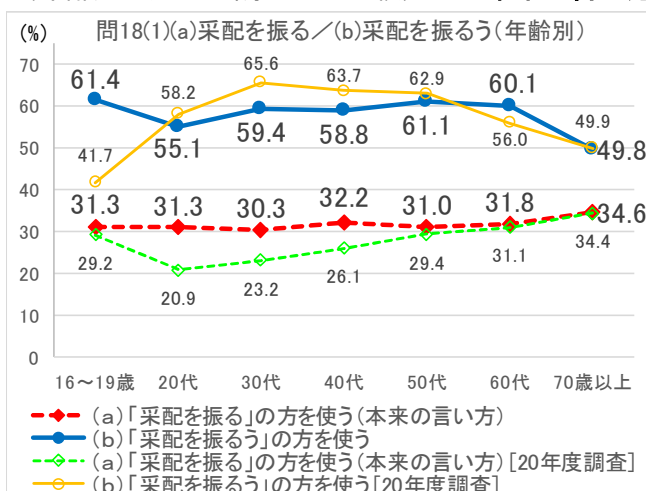
【全体・過去の調査との比較】

表に挙げた三つの慣用句等について、どちらの言い方を使うかを尋ねた。なお、辞書等で主に本来の言い方とされているものをゴシック体で記した。

今回尋ねた三つの慣用句等のうち、本来の言い方とされる(1)「(a)采配を振る」を使う割合は、本来の言い方とされていない(1)「(b)采配を振るう」の割合を大きく下回っている。

過去の調査結果((1)は平成20年度、(2)は19年度)と比較すると、本来の言い方とされている方を選択している割合が、(1)「采配を振る」では4ポイント増加しているが、(2)「溜飲(りゅういん)を下げる」では、2ポイント減少している。

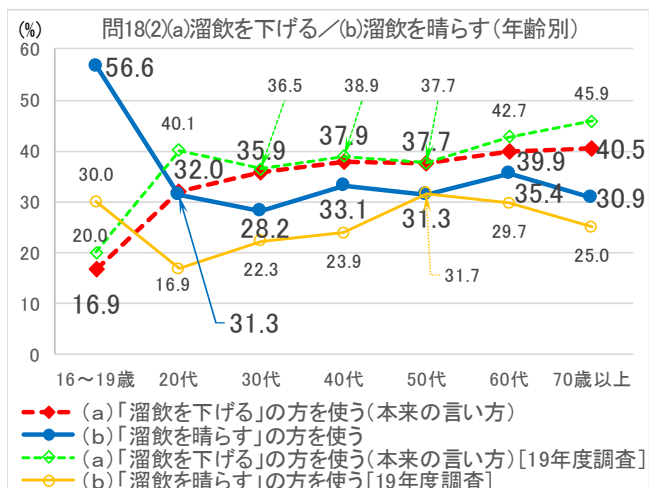
【年齢別・過去の調査との比較】 ※本来の言い方とされるものは点線(- - -)で表示した。



(1) 采配を振る／采配を振るう

年齢別に見ると、本来の言い方とされる「(a)采配を振る」は、全ての年代で「(b)采配を振るう」の割合を下回っており、3割台前半となっている。「(b)采配を振るう」は、16～19歳と30～60代において、約6割となっている。

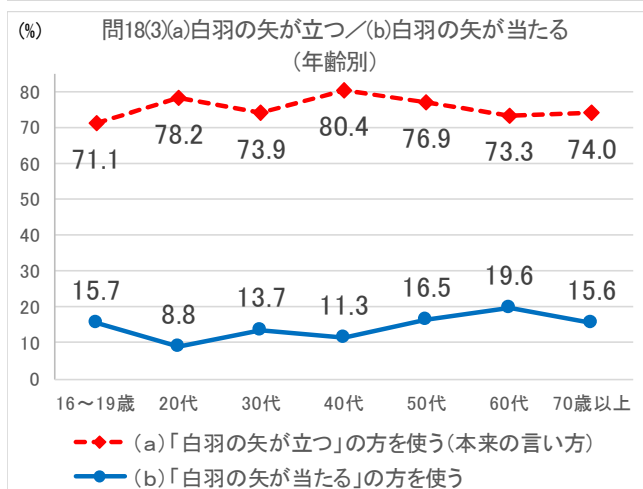
過去の調査結果(平成20年度調査)と比較すると、本来の言い方とされる「(a)采配を振る」は、20代～40代で6～10ポイント増加している。「(b)采配を振るう」は、16～19歳で20ポイント増加している。



(2) 溜飲を下げる／溜飲を晴らす

年齢別に見ると、本来の言い方とされる「(a)溜飲を下げる」は、年代が上がるに従って高くなる傾向が見られ、20代以上で「(b)溜飲を晴らす」を上回っている。「(b)溜飲を晴らす」は、16～19歳で他の年代より高く56.6%となっている。

過去の調査結果(平成19年度)と比較すると、本来の言い方とされる「(a)溜飲を下げる」は、余り変化は見られない。「(b)溜飲を晴らす」は、50代を除いて6～27ポイント増加している。



(3) 白羽の矢が立つ／白羽の矢が当たる

年齢別に見ると、本来の言い方とされる「(a)白羽の矢が立つ」は、全ての年代で「(b)白羽の矢が当たる」の割合を上回っており、40代で他の年代より高く80.4%となっている。「(b)白羽の矢が当たる」は、60代で他の年代より高く19.6%となっている。